

## Close up

「日本語教育と国際交流(「やさしい日本語」から)」

人文学部 有田佳代子

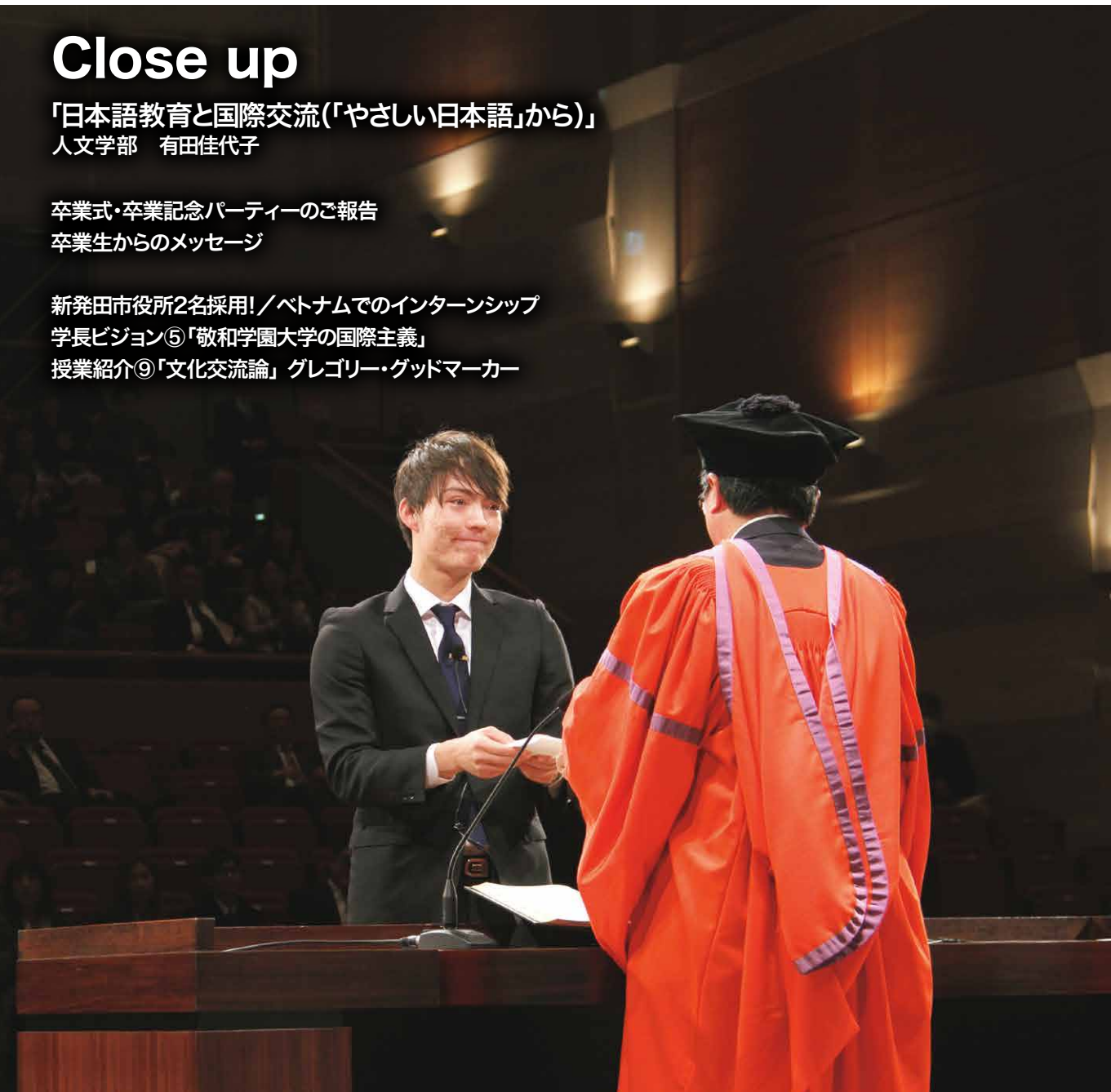
卒業式・卒業記念パーティーのご報告

卒業生からのメッセージ

新発田市役所2名採用! / ベトナムでのインターンシップ

学長ビジョン⑤「敬和学園大学の国際主義」

授業紹介⑨「文化交流論」 グレゴリー・グッドマーカー





公設鮮魚市場



取材する学生



編集集中の様子

## アクティブラーニング紹介⑨ 「地域活性のための映像制作」

地元である新発田市・聖籠町を中心に、新潟県内各地で取材して映像を制作し、インターネット上で公開しています。地域の方々とふれあいながらその魅力を再発見すると共に、ドキュメンタリー制作の基本を学び、制作者の視点からメディアを読み解く力を身につけます。

昨年度の集中講義で学生たちが制作した映像作品「新発田川の上で～公設鮮魚市場の人々～」は、東京ビデオフェスティバルで入選しました。

## 誌面案内 Magazine Guide

Close up .....	1
「日本語教育と国際交流（「やさしい日本語」から）」 人文学部 有田佳代子	
第23回卒業式・卒業記念パーティーのご報告 …	4
卒業生からのメッセージ .....	6
新発田市役所2名採用！公務員試験対策とその成果 …	7
ベトナムでのインターンシップ「日本語教師を体験」 …	8
4年間の集大成 卒業論文のご紹介 .....	8
学長ビジョン⑤「敬和学園大学の国際主義」 …	9
情報メディア研究所を開設しました……………	9
AYF「アジアの若者たちとの有意義な異文化交流」 …	10
授業紹介⑨「文化交流論」グレゴリー・グッドマーカー ……	11
同窓会リレー・エッセイ⑳……………	12
「国際交流活動で生きる母校の学び」 田村 佑介（9期生）	

〈表紙写真〉  
卒業式での和田勇太さんによる答辞（p.4）



# 日本語教育と国際交流（「やさしい日本語」から）

●「やさしい日本語」とは？

日本語教育学を学ぶ先日のクラスで、私たちは「やさしい日本語」について議論しました。「やさしい日本語」とは、阪神淡路大震災をきっかけに、災害時に外国籍住民の安全を守るという目的で作られた概念です。一九九五年の震災時、命にかかわる重要な情報が日本語の難しさのために外国籍住民に十分に届かず、被害が大きくなりました。現在では、大学のある新発田市でも多言語防災パンフレットと共に「やさしい日本語」版もできました。また、最近の災害時ニュースで「高台に避難してください」だけではなく、「つなみーにげてー！」などのフレーズを見聞きした方も多いと思います。しかし、非常時に「やさしい日本語」を機能させるためには、平時の取り組みが欠かせません。そして、例えば市役所などからの重要な情報をわかりやすく伝えることは、外国籍住民にとどまらず、障害を持つ人、子ども、高齢者など、つまり、私たちみんなにとって大切です。

と、「やさしい日本語」の説明が長くなりましたが、私たちのクラスでの議論は、概ね次のようなものでした。「やさしい日本語」の意義はわかるが、それを進めていくと、日本人が伝統の中で作ってきた、語彙が豊かで奥深い表現ができる「美しい日本語」がなくなるのではなか。災害時には必要かもしれないが、普通の日本語を使えるようにならないければ、結局は「やさしい日本語」しかできない人、「二流の日本語話者」として軽蔑されるのではないか。学校などで日本語を学ぶ留学生は普通の日本語でもいいかもしれないが、日本社会には日本語を学ぶ機会がない外国人もたくさんいるのだから、やはり「やさしい日本語」は必要だ。でも、そうしたら日本国内にいる外国人の間に「格差」が生まれてしまうのではないか……。このクラスは、日本人学生と外国人留学生が共に履修する、プレゼンテーションと議論が中心の一五人ほどのクラスです。この例に限らず、いつもとても活発に意見が飛び交います。

●海外、そして学内での国際交流

日本語教育学を学ぶ学生たちの多くは、国内外で日本語を教えるための一定の証明となる「日本語教育プログラム」のタイプロマ取得を目指しています。このプログラムには実習が含まれますが、今年度は二名の学生がベトナムの学校で一〜二か月の日本語教育インターンシップを経験しました（本誌八ページで紹介）。昨年度は、外務省外郭団体国際交流基金の日本語パートナーズ事業に応募した学生が、半年間のインドネシアでの公務（日本政府による派遣）を経験しま

## Close up

人文学部

有田佳代子



した。私自身もタイやオーストラリアにボランティア活動や留学で長期滞在したり、ベトナムでも勤務してきたので、若いころの海外体験がかけがえのない貴重な日々であることを実感しています。そして、こうして海外を体験してきた本学の学生たちのピフォー＆アフターを目撃し、その確信を新しいものにしていきます。

しかし、海外での体験ばかりが国際交流ではありません。先ほどの授業の話でも少しご紹介しましたが、日本人学生にまったく劣らず、外国語である日本語を使って議論する留学生たちが、本学にはたくさん在籍しています（まだ日本語に慣れない留学生もいますが…）。中国・韓国・ベトナム・タイ・イタリアから外国人留学生が、またアメリカや台湾からも短期留学生が本学に來ます。日本人学生の中には「留学生と友達になりたい」



日本語クラスの様子

れど、どうしたらいいかわからない」という人がいますが、本学には留学生との交流を目的とする授業もあるので、ぜひ履修してください。また、「留学生歓迎会」や「餃子作って食べよう会」的なイベント、そして「日本語支援ボランティア」などの制度もあります。こうした場で、留学生たちと友達になりながら、国際的な感覚も自然のうちに身に付けていって欲しいと思います。先日読んだ学生の所感文には、「敬和学園大學に來る前は、中国のイメージが悪くてあまり好きではなかった。でも、敬和に來て中国人学生と友達になって、本当にやさしくて親切で驚いた。自分がマスメディアなどの周りからのイメージに囚われていることを痛感している」とあり、私としてもうれしい反面「日本社会に深々と横たわる『外国人差別』とどう向き合っていけばいいのか、あらためて考えさせられました。」

### ●多文化共生社会の構築のために

日本語教育学は、もともと日本語非母語話者に日本語を教えるための学問でした。しかし、少子高齢化による人材不足を外国人に頼り、観光立国として外国人客呼び寄せ、二〇二〇年オリンピック・パラリンピックを控えている日本社会にあって、多文化・多言語化を目指すことは不可避です。そうした中で、ヘイトスピーチなどの極端なことをするのは限られた人によるものであったとしても、それを生む土壌は、私たちの身近にも存



みんなで餃子づくりを楽しみました

在します。このため、私たち日本語教育関係者は、多文化共生社会を構築するためには、外国人が日本語を一生懸命に学ぶだけでは圧倒的に不十分で、ホストである多数派の日本人が変わらなければなりませんと考えています。このような文脈から考えても、敬和学園という私たちの小さな共同体ですが、そこで外国人学生と日本人学生が語り合い、理解し合い、時には対立したり摩擦を起こしたりしながらも、仲間として共に時間を過ごすことの意味は、実は大きな社会的広がりのあるものだと考えています。

### ●学生による日本語学習支援活動

また、地域社会の国際交流活動にも、本学の学生たちは貢献しています。一つは、外国ルーツの子どもたちへの日本語学習支援活動です。新発田日本語教室に



国際交流インストラクターの活動

よる「サマースクール」、学生寮のあるイクネス新発田での「Jスクール」はこうした子どもたちへの学習支援であり、本学の学生たちも参加しています。外国人学生数名は、通訳や母語教育支援などで毎週定期的に新発田市立の小・中学校に通っています。日本にいる外国ルーツの子どもたちは、一般的にあまり知らないような問題を抱えています。それは、人間の言語習得には「生活言語能力」と「学習言語能力」の二種類があるということ、周りの大人がよく知らないという事です。生活言語というのはいわゆる話しことばですが、子どもはすぐに上手になります。「これ、わかった?」「うん、わかった」「じゃ、書いてもらん」「はい」というようなコミュニケーションです。一方、学習言語というのは、教科書や試験問題に出てくるようなことばで、「理

解したことを記述しなさい」などの、いわゆる書きことばです。学習言語は生活言語の三倍から五倍も習得時間がかかります。外国ルーツの子どもはべらべらと日本語を話しながら、学業成績が伸びず高校への進学率も低いということは、もちろん全部の子どもではありませんが、そうした傾向があることは事実です。「あんなに日本語ペラペラなのにサボっているから」「勉強嫌いだから」という理由を付けられてしまいがちですが、実は日本語教育が十分ではなかったというのが現実です。今の日本社会では学業成績がその後の職業生活にある程度左右してしまうこと、学校社会からドロップアウトしてしまうと反社会的団体との接点も作りがちであることを考えると、こうした外国ルーツの子どもたちへの言語や学習支援を充実させていくことは、まさに喫緊の課題です。この、本来は国や行政がよりお金をかけて取り組んで欲しい活動に、本学の学生たちが地域住民の皆さんと共に力を注いでいるのです。

### ●学生による国際交流インストラクター活動

地域社会の国際化への貢献として、もう一つ紹介したい活動は、新潟県国際交流協会に「国際交流インストラクター」として認定された学生たちによる、県内小・中学校や高校での国際理解教育ワークショップです。私が引率したのは、「外国語って英語だけ?」というタイトルのワークショップです。身近なことばの由

来を子どもたちに楽しみながら考えさせることで、日本社会にある欧米崇拜・アジア軽視の風潮を批判的に自覚してもらおうとする授業でした。長期休暇を使って準備をすすめ、先輩から受け継いだノウハウを現役の学生たちが自分たちに合うようにアレンジした、子どもたちの心に届くすばらしい授業でした。

このように、本学の学生たちは学内外でさまざまな国際交流活動を行い、社会的に貢献すると同時にそこで多くを学んでいます。大学というのは待っているだけだとなかなかチャンスが見つかりませんが、自分でどんどん探していくと、思いもかけない面白いことが、ここにもあそこにもという感じであるものです。大いに探してみてください。

## Profile

有田佳代子 特任准教授  
プロフィール

### ●最終学歴

一橋大学大学院言語社会研究科博士  
後期課程（博士（学術））

### ●こんな授業をしています

日本語による人間関係のネットワークを広げること、かつ日本の社会・文化を学生と教員が共に発見するプロセスの場となることを目指した授業をしています。

## 「敬和の学びが人生を支える」

第二十三回卒業式が三月二十四日、聖籠町市民会館で行われました。会場は、思い思いの晴れ着を着た卒業生とご家族で、華やかな雰囲気になりました。

山田耕太学長からは、卒業生一人ひとりに対するメッセージおよび力強い握手と共に「卒業証書・学位記」が手渡されました。式辞では、これから社会人として新しい生活が始まる卒業生に対し、ローマ書（二二・九・一七）より、パウロによる、いかに生きるべきかの言葉を引用して、「理想」を見る目を失わないで欲しいとのメッセージが贈られました。これからの人生を生きる指針としてのメッセージは、卒業生それぞれ胸に深く刻まれたことでしょう。

卒業生代表の和田勇太さんからは、入学前・在学中に思い悩みながら、家族や



山田学長が卒業生一人ひとりと握手



山田学長からの式辞



KEIWA Choirによる校歌



小西理事長による祝祷



式が終わって先生と記念撮影

## チャレンジし、身につけた自信

卒業生代表

和田 勇太



入学からの四年間、たくさんのできごとがありました。そのすべてが懐かしい思い出です。大学は、新たな機会と希望に出会う場所でした。もちろんつらいこともありましたが。

入学当時はアメリカから帰国したばかりで、日本語には全く自信がありませんでした。新しい生活に慣れることは難しく、この先どうなるのか不安は

かりでした。しかし、自信がないまま大学生活を送りたくない気持ちが強くなり、先生が教えていることが聞き取れなくても、同級生とコミュニケーションを取りづらくても一生懸命日本語を勉強しました。恥ずかしい思い出もたくさんありましたが、その経験のおかげで自分に自信が持てるようになったと思います。失敗したことで、怖くなる気持ちや緊張する気持ちがだんだん消えていき、友達も増え、楽しい毎日を過ごせるようになりました。

バレーボールの楽しさ、コミュニケーションの努力、ボランティアの大切さ、支えてくれた友達への感謝はすべてチャレンジしたからこそできたことです。大学で新たな経験ができてよかったです。これから社会人として、この経験を生かして成長したいです。

## 第二三回卒業式・卒業記念パーティーのご報告

仲間、教職員に支えられ、共に学び成長して、この日を迎えられたことへの感謝が述べられました。

卒業式の後、新潟市内のホテルに会場を移し、卒業記念パーティーが行われました。卒業準備委員会が制作した四年間の大学生活を振り返るビデオが披露され、参加した卒業生や保護者の皆さま、教職員とで楽しかった学生生活を思い出しながら、語らいの時を持ちました。締めくくりには、四年間を共に過ごした卒業生と教職員一同が舞台上に集まって、一緒に記念撮影をしました。

四年間の敬和学園での学びにより、それぞれの持つ可能性を広げて巣立っていく卒業生たちが、希望の光となり、社会を照らしてくれることを期待します。



卒業準備委員の学生たち



山田学長とカンパワイ!!



ダンス系サークルの卒業生によるステージ



お世話になった先生たちと一緒に



卒業生・教職員一同で最後の記念撮影

### 四年間の集大成となった卒業準備委員会

国際文化学科卒業

高橋 もも



今年の卒業準備委員会は、卒業アルバム作成、卒業記念品の決定、卒業記念パーティーの準備と進行に加え、新たにパーティーで流す動画を作成しました。去年まで一戸ゼミが作成していましたが、今年はたくさんの方に参加してもらったために、準備委員会で正

式に動くことにしました。

準備委員会で作り出したもの一つひとつが、皆さんの大学生活を締めくくるといい思い出になり、何年後かにふと思い出してもらえるように精一杯がんばらせていただきました。うまくいかないこともたくさんありましたが、私にとって、準備委員長の仕事は、大学生活の集大成だったと思います。

また、皆さんの思い出を卒業アルバムや動画などのカタチにして残すお手伝いができて、本当によかったです。それができたのも、最後まで文句を言わずについて来てくれた準備委員会のメンバー、動画に参加してくれた皆さん、お手伝いしてくれた教職員の皆さまのおかげです。本当にありがとうございます。敬和学園大学での四年間に感謝します。

## 最高の仲間たちと学んだ4年間

英語文化コミュニケーション学科卒業

牧田 比菜子



英語をもっと身近で勉強したい、教員免許を取得したいなど、たくさんの期待に胸を膨らませて敬和学園大学に入学しました。そして実際に、ネイティブの先生がすべて英語ですすめる授業や、文学作品の一部を英語で演じる授業など、実践的な英語を楽しく学ぶことができました。また、国際交流インストラクターやボランティアでは、大学内だけでは学ぶことができないことを知り、その学びは、履修していた教職課程にも生かすことができました。教職課程ではたくさん課題や授業で他の学生より大変でしたが、最後まで取り組めたのは共に学んだ仲間のおかげでした。この教職課程での学びは、私の学生生活の中で一番大切な経験となりました。

この4年間で、私は最高の仲間ができて、毎日楽しく学び、自分が大きく成長できたことを実感しています。今まで支えてくださった先生方や職員の方々、共に学び切磋琢磨し合えた仲間への感謝の気持ちを忘れずに、これからもがんばっていきます。ありがとうございました。

## 自分に向き合い感じた楽しさ

国際文化学科卒業

金 妍優



私にとって大学4年間は、自分自身への挑戦でした。今は、自分が考えていた以上のことを学んで、卒業に向かっていきます。

入学したころ、日本での社会経験が一度もなかった私は、知らないことが多く不安だらけでした。言語はもちろん、みんなにとって当たり前なことも未経験であることが多かったので、思った以上に大学生活に慣れるのに時間がかかり、時間が経てば経つほど自分自身が小さくなる気分でした。しかし、周りが難しいことや不安なことだらけという考えは自分の思い込みで、自分ひとりですべての思い込みで、自分ひとりで苦しんでいただけであったと気づきました。そこから、自分自身と向き合い、できるだけたくさんの方に挑戦し、経験することで、楽しさを感じることができました。これが小さな社会である大学での本当の学びだったと思います。

これからは、大きな学びをくれた母校を離れ、より大きな社会に出ますが、これからも新たなことに挑戦していくことがとても楽しみです。

## 支援する立場になる自信を持ってました

共生社会学科卒業

田中 俊吾



入学前は「どのような4年間になるのだろう」という受け身の不安が、期待よりも少しだけ大きかったことを覚えています。社会福祉を学ぶことに専念する4年間にできたかと考えていました。

大学にも慣れてきたころ、交友関係を広げたくなり、「共生ボランティアネット」というサークルに入りました。サークル活動は、交友関係を広げるのみならず、学科のキャリアラムで学んだことと合わせて、自分自身が支援してもらう立場ではなく、支援する立場になることができるという自信を持つきっかけとなりました。その後、学生によるボランティアアコーディネーターに携わったり、東京での学生ボランティアフォーラムにも参加したりしました。

4年間継続して学業にも力を入れながら、自分なりに主体的に大学生活を送ることができたのは教職員の方々や友人たちによる、さまざまな形で支援のおかげです。本当に感謝しています。母校で得た自信と学びを生かしてこれからも一歩一歩着実に進んでいきます。



新発田市役所に二名採用!

## 公務員試験対策とその成果

公務員を目指す学生に対しては、就業体験として市役所等でのインターンシップを勧めると同時に、筆記試験対策として公務員試験対策講座、専任教員主導による勉強会を実施しています。さらに、筆記試験合格者に対してはキャリアサポート課で集団討論、個人面接、集団面接の練習を集中的に行い、試験合格をサポートしています。

その結果、二〇一六年度は地元の新発田市役所の採用試験に二名の合格者を輩出しました。今後も地域で必要とされる人材の育成に努めていきます。  
(就職委員会)



新発田市役所 内定  
川上 舞

私は三年生の後期から公務員試験対策の勉強会に参加し、先生や先輩から筆記試験のための勉強方法や問題の解き方を指導していただきました。また、集団討論や面接の練習はキャリアサポート課に協力していただきました。一次試験が始まり、最終試験が終わるまで不安でいっぱいでしたが、試験対策をしっかり行い自信をつけていくことが不安をなくす一番の方法でした。

新発田市役所の職員として住みやすく活気あるまちづくりに貢献していくため、残りの大学生活では新発田市についてさらに勉強し、四月からよいスタートを切れるように励みたいと思います。

最後に、合格まで目標を見失わずにがんばれたのはキャリアサポート課をはじめ、たくさんの方からの応援のおかげです。本当にありがとうございました。



新発田市役所 内定  
長瀨 美郷

公務員試験合格までに、たくさんの方の支えと応援がありました。本当にありがとうございました。また、就職活動を通して、自分自身と真剣に向き合うことで、成長することができました。

私は、三年生の前期から試験勉強を始め、四年生では民間企業の就職活動と並行して勉強を続けました。大学では、「地域学」の授業や、市役所での「インターンシップ」、「新発田学研究センター」での活動など、新発田市を知る機会をたくさんいただきました。つらい時には、友人や先生が励まし、応援してくれたおかげで、乗り越えられました。試験合格を友人に伝えた時、自分のことのように喜んでくれたことは忘れられません。

新しい生活は、期待と不安でいっぱいですが、大学で学んだことを思い出し、精一杯仕事に取り組みたいです。

## 就職に向けた資格取得講座のご紹介

敬和学園大学では、秘書技能検定、リテールマーケティング（販売士）検定、医療事務、介護職員初任者研修など資格取得を支援するさまざまな講座を行っています。多くの学生が受講できるように受講料の一部を大学が負担し、さらに、難易度の高い資格を取得した場合には「資格取得奨励奨学金」を支給する等、できる限りのサポートをしています。

資格取得は就職活動に有利になるものもあり、また、資格取得に熱心に取り組む姿勢が熱意・意欲を表すものとして評価されることもあります。

今後も要望に応じて随時講座を拡大していく予定です。  
(就職委員会)



秘書技能検定講座の様子

ディプロマ「日本語教育プログラム」

## ベトナムでのインターンシップ「日本語教師を体験」

敬和学園大学の「日本語教育プログラム」は、指定された科目群を履修することで、国内外での非母語話者への日本語教育について一定の資格を得られる教育プログラムです。井上佳奈さんと庭野果菜さんは、共に日本語教育に強い関心を持ち、本学の留学生へのT・A業務や地域日本語支援などに積極的に関わってきました。今回、その総まとめとしてベトナムでのインターンシップに行ってきました。二人とも卒業後すぐに日本語教師になるわけではありませんが、国内外で身につけた日本語教育学の知識やスキルを各々の職場や家庭で生かしていくことは、多文化共生社会構築に、大きく貢献するはずですよ。

(人文学部 有田)



日本語学校でのインターンシップに参加した井上さん（写真中央）

## 想像を超えた学びの楽しさを経験



英語文化コミュニケーション学科卒業

井上 佳奈

「日本語教育プログラム」で学んだことを、教育の現場で実際に試してみようと、このインターンシップに参加しました。現場を経験できることへの期待と言葉も分からない国に一人で行くことへの不安とが入り混じった気持ちで出発しました。しかし、ベトナムに着いてみると不安はすぐに消え、なんでもやってみたいと積極的な気持ちになれました。

日本語学校では、授業見学、宿題やテストの採点、受付などの事務作業をさせていただきました。スタッフや先生とのコミュニケーションに四苦八苦しながらも学びの多い日々を過ごしました。日本語学習者の多いベトナムでの日本語教師の仕事は思った以上に忙しく難しいこともありましたが、それ以上に学生との交流や熱心に学ぶ姿から大きなやりがいを得られる仕事だと実感しました。また、学生と出かけたり、おいしい物を食べた、ローカルな体験もたくさんできました。出発前には想像もできなかったほど楽しく、勉強になった一か月でした。これからも日本語教育や言語について勉強し続けていきたいと思っています。

## 四年間の集大成 卒業論文のご紹介

一年生から四年生まで続く演習の集大成として、学生と教員がマンツーマンで卒業論文に取り組みました。その中から一本をご紹介します。

『Hamlet』における Horatio の役割  
- 友として、幽霊として -

英語文化コミュニケーション学科卒業

加納 由季

私は文学が好きで、二年生の時から文学に関する講義を集中して受講していました。その中で出会ったシェイクスピアの作品『ハムレット』に惹かれ、特に魅力的な登場人物であるホレイシオについて卒業論文で取り上げることを決めました。研究はまず、四〇〇年前に書かれた作品を原文で読むことから始めました。現代のものとは異なる形の英文を読むのはとても難しく、時間がかかりましたが、原文で読まなければ得られない気づきもあり、よい経験になりました。一年を通して同じ作品について考えるのは大変でしたが、週に一度行った金山愛子先生との勉強会が、作品と向き合い、論文を作りあげるための力になりました。金山先生をはじめ、論文完成まで支えてくださったすべての方に感謝しています。

## 敬和学園大学の国際主義

敬和学園大学は、「一人ひとりの個性を大切にし、地球規模で考えて、地域社会で仕える人」を育成しています。異文化理解は外国語の習得から始まります。本学では、英語のほか、ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語、ロシア語が学べます。留学生は日本語を学びます。

「聴く」「話す」の科目は、基本的にはネイティブ・スピーカーの教員が受け持ちます。本学の在学学生に対する専任外国人教員の比率は、日本の大学約七五〇校の中で二〇位ほどです。在学生の七％は四年間在学する留学生です。キャンパスの中で、自然に異文化を理解し、国際交流ができる環境にあります。

言語習得のほかに、異なる文化圏の政治・経済・文化・社会・思想・宗教を多面的に理解することが必要です。三学科八コースの中にこれらの科目が散在していましたが、これらの科目を卒業後の目的別に科目群をまとめて、「プログラム」化して、履修しやすくなりました。その結果、七つの教育プログラムがあります。「英語イマージョン（英語漬け）」「児童英語教育」「日本語教育」「グローバル市民」「地域経営」「情報メディア」「キリスト教教育」の各プログラムです。

留学プログラムには、三〜四週間の短期留学、半年間または一年間の長期留学、自由に留学先を選べる自由留学がありま

す。留学先で取得した単位を認め、長期留学の場合には、留学先の授業料を支援する制度もあります。受け入れプログラムには、四週間の日本文化・日本語研修プログラム（JCLP）があり、その期間中はキャンパスが国際交流で華やぎます。この春からは国外特別聴講学生制度という半年や一年間の長期留学生を受け入れる制度が始まります。

違った文化や生活習慣、考え方を尊重し、理解して受け入れることは、自分の経験を豊かにするばかりでなく、草の根のレベルで平和を築いていくこととなります。その中で最も大切なのは友情です。

（学長 山田）



JCLPでの日本語パートナー活動

### 新潟のメディア環境を構想する

## 情報メディア研究所を開設しました

新潟におけるメディア環境を構想する研究所として、二月一日、学内に情報メディア研究所を開設しました。ソーシャルメディアの普及による社会の変化、情報の送り手や受け手の対応に着目し、実践的な研究活動を推進します。研究統括は、本学の戸信哉教授が務めると共に、記者、アナウンサーやICTの専門家など、「情報メディア」に関わるメンバーが客員研究員に就任しています。研究活動の成果は、本学の情報メディア教育・リベラルアーツ教育の充実に活かし、地域人材の輩出により地域社会に還元します。

（情報メディア研究所）



3月11日に行われた研究会・ワークショップの様子

台湾で行われたアジア・ユース・フォーラム二〇一六に参加

## アジアの若者たちとの有意義な異文化交流

アジア・ユース・フォーラム（AYF）が、一月八日から一週間の日程で台湾にて開催され、敬和学園大学から三名の学生がグッドマーカー先生の引率で参加しました。アジアの多くの国と地域から若者が集まり、英語を共通語にお互いの文化を学び合い、社会の諸問題について議論を交わしました。リーダーシップ、責任感、協働を柱にしたセミナーやワークショップを通して、有意義な異文化交流が展開し、参加者同士の絆を深めることができました。

（英語文化コミュニケーション学科）



英語文化コミュニケーション学科 四年

田中 大悟

私はこのイベントに父親と一緒に参加し、さまざまな状況の人たちと出会いました。車椅子に乗りながら海外へ行くということは、なかなか貴重な経験でした。何か所か私が通れないところもありましたが、他の人たちの助けによって遅れずについていくことができました。

教育に従事している方々の前でスピーチした時には、障がい者と教育について、私の持論を語りました。そして、その時は、障がい者代表としての役目を果たしたように感じました。

このフォーラムで、私はできる限りたくさんの方のことを学びとるために、できるだけ意見表明を行いました。そのおかげで、他では得られないような大きな達成感を得ることができました。私は、この人生で最も濃密な一週間が今後につながると確信しています。



英語文化コミュニケーション学科 四年

和田 昂子

私たちはこのフォーラムの中で、環境問題、社会問題、経済や政治について話し合いました。また、互いの文化を知るために、伝統的な踊りを披露したり、民族衣装を着たり、自国についてのプレゼンテーションをしたり、自分たちの母語を教えあったりしました。寝ずに朝まで準備をした日もありました。しかし、そんなこともすべてよい思い出です。

また、AYFの全てのプログラムが堅苦しいものだったわけではありません。自由時間には友達と夜市に出かけたり観光に出かけたりと、素晴らしい時間を過ごすこともできました。

つらいことや楽しいこと、すべてをみんなで共有してきたからこそ、私たちは国や民族の違いを超えてひとつになることができました。いつかまたAYFのメンバーと会える日を！

## 三五周年記念募金者ご芳名

（二〇一七年二月二十八日現在、敬称略）

## 〈一般〉

長谷 友寛、神田 義和、桑原 松洋、関 秀明、

CEC新潟情報サービス株式会社、

樫内建設株式会社、

株式会社ミツル電工、

山田建設株式会社、

株式会社夢ハウス、

代田教会、 東新潟教会、

経堂緑岡教会、 中条教会

## 〈卒業生・在学生・保護者〉

藤田 浩之（二）、田中 正範（九）、

捧 真理（一九）、大屋 秀子（二五）、

門野 剛（二五）

## 〈学園関係〉

青山 良子、船岡 芳晴、金子 弘幸、

加藤 君恵、小端 康弘、小林 誠、

小竹 城、倉島 謙、前田 豊彦、

佐藤 秀之、佐藤 睦郎、鈴木 麻由、

鈴木 美和子

## （一）内、漢数字は期生

皆さまからの記念募金は、学生寮や奨学金などに活用させていただきます。

〈郵便振替口座〉

〇〇五五〇・五・一〇二四二三

敬和学園大学

## 世界を知ること、柔軟な思考を確立します

”当たり前”だけではない世界の文化

「文化交流論」は、私自身もワクワクする、お気に入り科目の一つです。

この科目では、学生と教員が、多文化理解の観点から、「美の概念」「成人」「デート」「食」「死」などといったトピックについて調査します。世界各国のビデオを見ながら、私が二五か国ほど回って経験したエピソードも紹介します。

また、授業で使用する言語は英語です。この科目の主要な目的は、英語だけでなく経験を設定した上で、世界のことをもっと知り、自己認識を深めて、柔軟な思考法を確立することです。これにより、学生は自己の英語力、さらには異文化間コミュニケーションのスキルを高めることができます。



授業では英語で議論を深めます



英語文化コミュニケーション学科三年

島倉 由佳

私が大好きな授業の一つ「文化交流論」を紹介します。

私はこの授業で、世界には不思議な文化がたくさんあることを知りました。例えば、日本の成人式はきらびやかなイメージですが、文化によっては過酷な儀式を行う場合もあります。人を葬る際に日本では火葬が一般的ですが、死体を切り裂いて鳥に食べさせる文化も存在します。このような内容を、スクリーンで映し出される映像・画像を見ながら、先生がたくさんの国に行った経験を元に解説してくれます。そして、授業で使っている教科書は、なんと先生と先生の奥さまがこだわりを持ってつくったものです！だから、面白くて、分かりやすいのです。

また、この授業は全て英語で行われるので、他の文化を知るよい機会であると同時に、英語を聴く力・話す力を向上させることもできるので、

この授業を受講し、私も、徐々に自分の考え方が変わってきました。自分にとっての”当たり前”以外のことも受け入れる姿勢を持つことができました。

### 一般寄付者ご芳名

(二〇一七年二月二八日現在、敬称略)

#### 〈一般〉

安藤 眞知子、川崎 和雄、  
風間 まり子、松澤 郁子、  
荻野 秀子、相馬 文子、  
一般社団法人IBS社団、  
新井教会、東中通教会、  
東中通教会婦人会、東新潟教会、  
京都丸太町教会シオン会、見附教会、  
新潟教会婦人会、  
新潟YWCA内海公子、  
新発田キリスト教会、新発田教会

#### 〈卒業生・在学生・保護者〉

呉 賢欄(三)、高岡 美雪(四)、  
山宮 亜紀(五)

#### 〈学園関係〉

北垣 宗治  
後援会(二)、オレンジ会(二)

(一) 内、漢数字は期生、算用数字は回数

皆さまからのご寄付は、学生生活の充実に活用させていただきます。

〈郵便振替口座〉

〇〇六三〇・九・一九八九六

敬和学園大学



## 国際交流活動で生きる母校の学び



二〇〇二年度卒業  
田村 佑介

「光陰矢の如し」と言いますが、母校を卒業し、早や一〇余年の月日が流れました。このたび、自分を振り返るよい機会をいただきましたので、これまでの足跡をたどってみたいと思います。

私は小学生のころより、新潟市の郷土芸能である「新潟万代太鼓」に携わってきました。そして、中学一年生の時に、初めて海外での公演を経験しました。これが和の文化を伝える国際交流の原点となり、アジア各国をはじめロシア、欧米の国々で演奏させていただきました。

また、大学では国際文化学科に在籍し、日本の文化について、そして日本と諸外国との関わりなどを研究し、多角的な視野で考えるということを学びました。

現在は、新潟市の文化事業「東アジア文化都市」の一環として、私が代表となつて立ち上げた「新潟万代太鼓華龍」のメンバーと共に、また、他団体とのコラボレーションで、日本・中国・韓国の文化交流に参加させていただく機会が増えました。

いくつもの国を知ることにより、日本のよさを実感すると同時に、それぞれの

国のよさをさらに深く理解できました。人種、国柄、言語の違いはありますが、それぞれに自国の文化を大切にしていることを感じ、帰国するたびに、より一層和の文化の発展に力を注ぎ、発信しなければと、心新たにしております。

このようにさまざまな国との交流の中で考えを深めていくベースをつくってくれたのは、ひとえに母校の学びであったと、感謝しております。これからの日本を背負っていく学生の皆さんには、外国のよいところを学び、日本の「和の心」を感じ、心の視野を広げていってほしいと思います。

最後になりますが、母校の益々のご発展を、心よりお祈り申し上げます。



公演での田村さんの演奏（写真中央）

## 学業予告

- ◆四月◆
  - 一日 学年始め
  - オープンキャンパス①
  - 六日 入学式
  - 後援会総会
  - 七日 プレイスメントテスト
  - 一日 健康診断（一日まで）
  - 一日 履修相談日
  - 一日 前期講義開始
  - 二日 前期講義開始
  - 履修登録期間（一八日まで）
  - 四日 新入生歓迎公開学術講演会
  - 七日 学費前期納入最終日（二〜四年）
  - 二〇日 新入生オリエンテーション（二二日まで）
  - 二八日 入学記念植樹式
- ◆五月◆
  - 二〇日 高校生向け英検対策集中講座①
  - 二七日 大学オープンカレッジ
- ◆六月◆
  - 一〇日 スポーツ大会
  - 一八日 オープンキャンパス②
  - 二四日 創立記念日
  - 二八日 高校教員対象進学説明会
- ◆七月◆
  - 一日 聖籠町キッズカレッジ（陶芸教室）①
  - 八日 聖籠町キッズカレッジ（英語教室）①
  - 一五日 オープンキャンパス③
  - 二二日 三年生保護者との就職懇談会
  - 二九日 前期講義終了
  - 三一日 前期末試験（八月五日まで）

## 12 December

- 2 チャペル・アッセンブリ・アワー①  
説教 金山愛子 教授「もう一人の博士」  
講話 門野剛 THOMAS 代表、実践技術英語コンサルタント  
「私の留学体験」
- 3 第1回入学前スクーリング (写真1)  
「大学は面白いところ」(生徒 88 名、保護者 21 名)
- 7 教授会
- 9 チャペル・アッセンブリ・アワー②  
説教 山田耕太 学長「心の内に輝く光」  
クリスマスコンサート (写真2)  
Jazz Quest、ブラスバンド部、混声合唱サークル
- 10 AO 入学試験 (3 期) 面談日①  
センター試験プレテスト (～ 11 日)
- 13 留学生を支える会 奨学金贈呈式
- 16 チャペル・アッセンブリ・アワー③  
クリスマス燭火礼拝  
説教 下田尾治郎 宗教部長  
「神は低きにくだりたもう」  
チェロ独奏 Antargui Romero 氏  
讃美歌演奏 KEWA Choir  
キャロリング (学生 12 名)
- 24 講義終了
- 25 冬期休暇 (～ 1 月 4 日)
- 26 AO 入学試験 (3 期) 面談日②
- 29 冬期特別休業 (～ 1 月 3 日)



## 1 January

- 5 講義再開
- 6 AO 入学試験 (3 期) 合格発表  
チャペル・アッセンブリ・アワー④  
説教 小池正造 日本基督教団東新潟教会牧師  
「神さまとの約束」  
講話 徳田靖之 弁護士、ハンセン病国賠訴訟弁護団代表  
「ハンセン病問題から何を学ぶか」
- 10 卒業論文提出締切日
- 11 教授会
- 13 チャペル・アッセンブリ・アワー⑤  
説教 下田尾治郎 宗教部長「最後に勝つこと」  
ゼミ・ボランティア体験活動報告
- 14 大学入試センター試験 (～ 15 日)
- 17 教職課程 3 年生報告反省会
- 18 新年留学生交流会 (25 名)
- 20 チャペル・アッセンブリ・アワー⑥  
説教 山田耕太 学長  
「聞かれない祈りと聞かれる祈り」  
後期エッセイ・コンテスト授賞式  
ケリー・ニューエル奨学金授与式  
学生年度内表彰式
- 24 教職課程報告会 (写真3)
- 26 理事会
- 28 学業選抜特待生入学試験 (学力試験型 1 期) 一般入学試験 (A 日程)、外国人留学生入学試験 (1 期) 試験日
- 29 第 29 回社会福祉士国家試験
- 31 AO 入学試験 (4 期) 面談日①



## 2 February

- 1 教授会
- 3 学業選抜特待生入学試験 (学力試験型 1 期、センター利用型 1 期)、一般入学試験 (A 日程)、センター利用入学試験 (1 期)、外国人留学生入学試験 (1 期) 合格発表
- 4 後期講義終了
- 6 後期末試験 (～ 11 日)
- 8 AO 入学試験 (4 期) 面談日②
- 11 共生社会学科全体報告会 (写真4)
- 12 春期休暇 (～ 4 月 4 日)
- 13 後期集中講義期間① (～ 17 日)
- 14 一般入学試験 (B 日程) 試験日  
国家試験対策講座 1 (～ 17 日)
- 15 臨時教授会
- 17 一般入学試験 (B 日程)、AO 入学試験 (4 期) 合格発表
- 18 第 2 回入学前スクーリング  
「大学生生活の目標とは」(生徒 95 名、保護者 7 名)
- 21 後期末追試験 (～ 23 日)
- 27 後期集中講義期間② (～ 3 月 3 日)  
図書館蔵書点検 (～ 3 月 10 日)



## 3 March

- 1 臨時教授会
- 3 学業選抜特待生入学試験 (センター利用型 2 期)、センター利用入学試験 (2 期) 合格発表
- 8 一般入学試験 (C 日程)、外国人留学生入学試験 (2 期) 試験日  
教授会  
再試験 (～ 9 日)
- 10 学内合同企業説明会 (160 社 239 名、写真5)  
一般入学試験 (C 日程)、外国人留学生入学試験 (2 期) 合格発表
- 15 臨時教授会  
アクティブラーニング事例報告会
- 19 第 9 回「阿賀北ロマン賞」授賞式、まちの駅よるず「新発田学研究センター」開所 10 周年記念イベント (82 名)  
対談 石坂浩二 俳優、加藤宗哉 作家・元「三田文学」編集長  
「文学の力の現在 (いま)」(写真6)
- 23 理事会・評議員会  
推薦入学試験 (2 期: 指定校 I、II) 試験日、  
AO 入学試験 (5 期) 面談日①②
- 24 第 23 回卒業式 (聖籠町町民会館)  
卒業記念パーティー (新潟グランドホテル)  
学業選抜特待生入学試験 (センター利用型 3 期)、推薦入学試験 (2 期: 指定校 I、II)、AO 入学試験 (5 期)、  
センター利用入学試験 (3 期) 合格発表
- 31 学年終わりに



# Gems in KEIWA

チャレンジ学生ファイル Vol.54

栗島を元気にするために働きます

共生社会学科卒業  
畠山 健太



栗島で活動を共にしたメンバーと（右から3人目が畠山さん）

敬和学園大学を卒業し、春から、海を渡り栗島に就職することになりました。

最初に栗島へ行ったのは3年生のゼミ合宿でした。そのころはまだ栗島についての知識が少なかったのですが、実際に行ってみて、現地の方々と交流し、現地を調査することで、栗島の現状と特有の課題があることに気づきました。

4年生となり、今度は約半月ほど栗島で過ごし、3年生の時に感じた課題を解決するため、地域の方同士の交流の場づくりである「さっこい食堂」の運営に関わらせていただきました。やりがいがある面白い取り組みで、島の方々が笑顔で過ごす様子を見てうれしかったです。

このような経験を経て、栗島のために働いていくことを真剣に考えて就職活動に取り組み、栗島浦村で働くことが決まりました。自分自身、まだまだ成長しきれていない部分もありますが、栗島の発展と共に成長していけるように努力し続けていきたいです。

## 趙晤衍先生のコメント



毎年、栗島浦村の敬老会に合わせて行うゼミ合宿。ボランティア活動に加え、栗島の自然に触れ、離島独自の地域課題について学ぶことが目的です。畠山さんは、栗島の自然の豊かさと人々の人情深さ、そして地域課題にも直に触れることで栗島へのより深い興味や関心を持ちました。これからゼミ合宿で栗島を訪れるたびに頼もしい畠山先輩に会えることはみんなの楽しみです。



敬和学園大学の最新情報

敬和学園大学

検索

www.keiwa-c.ac.jp

